



サムリ・ナーマンカ氏

コンテンツホラリー・インテリアやデザインに関連する企業の新商品が一堂に会する「東京デザイナーズウィーク」が十月二〇日〜十一月三日、明治神宮外苑を中心とした会場で賑やかに開催された。国際色豊かな出張社の展示も行われ、各国からデザイナーが来日し、自身のプロダクトを紹介した。

小誌では、会期中、新宿・リビングデザインセンターOZONEで「アートアンドインダストリー展」を開催していた、理論物理学の学位を持つフィンランドのインテリアデザイナー

サムリ・ナーマンカ氏は、自身のデザインを日本市場にも浸透させたいとする同氏に日本のデザイン等の話を聞いた。

「日本のデザインの印象は、建築デザインは、静寂でシンブルな点などフィンランドのデザインと共通している部分が多い」。

「オフィス分野へはどのようなアプローチを考えていますか」。

「オフィス分野には大変興味がある。私のデザインだけではなく、北欧デザインにはless is more (シンプルなものに気持ちいい) という考えがあるのに対し、アメリカはmore is more (主張の強いデザインが好まれる) という印象がある。北欧のコンセプトが今後日本でも浸透していくと思う。ただ一つのアイテムだけを作っても状況は変わらないので、全体的な空間デザインの提案が必要だと考えている」。

「コンクリート表面

デザイナー、サムリ・ナーマンカ氏に着目。自身のデザインを日本市場にも浸透させたいとする同氏に日本のデザイン等の話を聞いた。

「日本のデザインの印象は、建築デザインは、静寂でシンブルな点などフィンランドのデザインと共通している部分が多い」。

「オフィス分野へはどのようなアプローチを考えていますか」。

「オフィス分野には大変興味がある。私のデザインだけではなく、北欧デザインにはless is more (シンプルなものに気持ちいい) という考えがあるのに対し、アメリカはmore is more (主張の強いデザインが好まれる) という印象がある。北欧のコンセプトが今後日本でも浸透していくと思う。ただ一つのアイテムだけを作っても状況は変わらないので、全体的な空間デザインの提案が必要だと考えている」。

加工技術「グラフィックコンクリート」は、日本でどのような場面、プロダクトへの活用が考えられますか。

「建物全体の外観や建物内の壁面、ランドスケープアートのように、屋外に置かれるものが考えられる。また、屋外用のベンチテーブルといったものにも応用できる。ヨーロッパではすでに多くのデザイナーに採用されているが、開発した私自身が驚くような使い方が考え出されている。模様や色、デザインなど制限がなく、とても自由な製品なのであらゆる可能性がある」。



グラフィックコンクリート
サムリ・ナーマンカ氏が特許を持つコンクリート表面加工技術。染色も可能なセメントと砂利を素材に、特殊なインクで印刷が施されたフィルムを用いて、セメントと砂利の質感、色味の違いによって、コンクリート面にデザインを印刷する技術。